

## 九州大学・CNRSによる国際共同研究ラボ「OPHELIA」について

世界屈指の研究機関であるフランス国立科学研究センター（以下、CNRS）<sup>注1</sup>およびソルボンヌ大学に設置された IPCM (Institut Parisien de Chimie Moléculaire) (UMR8232) との連携は、最先端有機光エレクトロニクス研究センター（以下 OPERA）<sup>注2</sup>の学術的發展において極めて重要な位置を占めるに至っています。

OPERA と CNRS-IPCM は、2015 年より本格的な研究交流を開始しており、これまで共著論文を 50 本、研究者・学生の交流は 100 件以上に達しております。2023 年より CNRS 国際共同プロジェクト (CNRS-IRP) <sup>注3</sup> に採択され、2026 年 4 月からは Organic Photonics and Electronics International Laboratory (OPHELIA: オフェリア) (IRL2043) をセンター内に創設することとなりました。OPHELIA は、日本で 15 番目となる CNRS 国際共同ラボ (CNRS-IRL) <sup>注4</sup> となります。今後、幅広い CNRS の部門及びフランスの大学等の高度教育機関との連携を従来の「点」の交流から、組織的・持続的な「面」の連携へと昇華させるため、日仏共同研究の戦略的拠点として、次世代の有機エレクトロニクスの研究推進と研究者育成を一体的に行うことを目的とします。

OPHELIA には、日仏よりそれぞれ共同ディレクターを一名ずつ置きます。日本のディレクターは九州大学安達千波矢主幹教授（最先端有機光エレクトロニクス研究センター長）、フランスは CNRS-IPCM・Fabrice Mathevet 博士。交流のシンボルとなるオフィスは九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター内に置きます。

（注釈）

（注1）フランス国立科学研究センター（CNRS）は、1939年に設立されたフランス最大の公的研究機関であり、世界を代表する研究機関の一つです。自然科学、人文・社会科学など幅広い研究分野を対象に、国内外の大学・研究機関との共同研究拠点の設置や研究者交流を通じて、国際的な研究連携を積極的に推進しています。

（注2）最先端有機光エレクトロニクス研究センター（OPERA）は、九州大学に設置された研究拠点であり、有機半導体材料を基盤とする光・電子デバイス研究を推進しています。新規材料の創製、デバイス開発、基礎物性の解明を一体的に進めることで、有機光エレクトロニクス分野における世界トップレベルの研究拠点形成を目指しています。

（注3）CNRS-IRP (International Research Project) は、フランス国立科学研究センター（CNRS）が海外の研究機関と共同で実施する国際共同研究プログラムであり、特定の研究テーマに基づく共同研究や研究者交流を通じて国際研究連携を推進する枠組みです。

(注4) CNRS-IRL (International Research Laboratory) は、フランス国立科学研究センター (CNRS) が海外の大学・研究機関と共同で設置する国際共同研究拠点です。

両機関の研究者が同一の研究ユニットとして長期的に共同研究を実施するとともに、研究者交流や若手研究者の育成などを通じて、国際的な研究ネットワークの強化を図ることを目的としています。

